

「さて、そろそろ夕飯の準備でもするかのう」マグワートが重い沈黙の扉を押し開けた。オレンジ色に燃え立つ太陽は、未だそのパワーを保ってはいるものの、その姿は稜線の向こう側へと消えつつあった。

「そうじゃ。お嬢さんは確か崖から落ちた衝撃で何処の誰か、名前さえ思い出せないんじゃないかな。どれ、卵料理でも作るかのう」

マグワートは、先祖のマグワートにそっくりな顎鬚を、これまたそっくりな仕事で撫でながら言った。

と同時に、ハッとした表情を浮かべた。「はて？ そう言え、まだ君の名前も何処で何をしているのかも聞いておらんかったのう」とウィザットのほうを向いて訊ねた。

その言葉に、ウィザットは背筋を伸ばして座り直し、1つ咳払いをしてから、誇らし気にこう言った。「僕は、Agave(アガーヴィ)王国の王子のウィザット」

「王国？ 王子？」その言葉に少し戸惑いながらも、ウィザットは続けた。「ああ。時々お城を抜け出して遊びに行く隣国 Sansavaria(サンセヴィエリア)にある森で出会ったマグワート爺さんの所をいつもの様に訪ねたら、怪我をして記憶を失くしているのお嬢さんを介抱していたのさ」



「え？ サンセヴィエリア？ マジョリアルが反応を示す。「何か聞き覚えがあるのかい？」ウィザットがマジョリアルを見る。「サンセヴィエリア：サンセヴィエリア：んく」マジョリアルは、ウィザットからの視線を逸らすと、頭を両手で抱えて唸り始めてしまった。

「そう言えば、お嬢さんは前に僕が、蛙」と言った際にも唸っていたなあ…。何か思い出せそうかい？」心配そうな眼差しを向けるウィザット。しかし、マジョリアルはそのまま固まり、何かを思い出した様子はいしなかつた。

そこで、マグワートは「お2人さんはオムライスが好きかな？」と話題を変えてみた。「オムライス？」ああ、卵には

コリンという神経伝達物質アセチルコリンの素が含まれていて、末梢神経、シナプス、中枢神経で働くんじや。短期記憶は海馬に、長期記憶は脳新皮質に保存されておるが、アセチルコリンが海馬と脳新皮質内の記憶を司っている可能性もあるそうじゃよ。今

のお嬢さんには必要な栄養素だと思つてな。それに、以前は卵はコレステロールとの関連で悪者扱いだったが、近年、無関係だという説も浮上して、非常に良い食材だという認識も広まつておるん

じゃ」「オムライスは卵を使う料理なのかい？」「おお、そうか。君達はオムライスそのものを知らないんじやな。ま、楽しみに待つておきなされ」マグワートはそう言つて微笑んだ。

「でも、卵を食べちゃつてバチは当たらないのかい？」ウィザットが不安そうに言う。「君はベジタリアンなのかな？」「ベジタリアン？」「基本的食べるのは野菜だけ」「んく。そういうことでもないけど、卵は命の素だから、食べるのは残酷だつて言う人もいるんだ。」「そういう考え方も確かにあるな。でも、ワシは命を戴くことに感謝を持つて食べることで、そのエナジーを伝承していけると

思うんじやよ。つまり、その命を貰つた側が今度はその命のエナジーを別の形に換えて、宇宙へ貢献していく原動力としていくことで、食べられた側のエナジーと共に生きていけると。」「成程。」頷くウィザットに「だが、この世は上の考え方だけではない。何が正しいとか間違いは基本的にはない。全ての考え方は尊重されるものであり、肯定も否定もないんじや。その中で、自分としてはどの考え方にフォロしてこの世での光の学びを遂行していくか。それはその人自身の自由意志じや。それを宇宙は見守つていて、そのことを忘れてはいけないんじやよ」と言った。そしてマグワートはキッチンへ行き、髭面には似合わないキョートな工

プロンをした。 つづく

チャネリング相談

Q 何かにつけて主人が、俺が買ってやったんだ、俺がお前を養ってやっているんだ的な態度を取ります。結婚前は私の為にお金を使うことが喜びだと言っていたのに、彼は最近はとても恩着せがましく、正直むかつきます。(Canada 在住 Oさん)

A 最低限の衣食住を確保する為には、基本的にはお金という具体的なツールは不可欠です。それとは反対に、愛や喜び、感謝等は目には見えないエナジーです。

ご主人はOさんが喜び顔が見たくてお金を使うことが彼自身の喜びでもありました。そして、そのことによつてお互いに愛を感じる事が出来ていました。

しかし、大変に失礼なことを申し上げると、男性は好きな女性が完全に自分のものになる迄は、相手を振り向かせようと、自分の存在価値を知らしめることだけに躍起な状態ですが、完全に自分のものになると、今度はある程度の見返りを、意識的か無意識的かは別として求める様になるケースが多いものです。

一方、女性側は最初は感謝の気持ちや言葉を態度で示していますが、その内に段々とそれが当たり前、の様な感覚になることも多いと思います。

そうすると、男性としては(特に自分に自信のない男性は)、自分の存在価値が薄れていく焦り、それにより相手の気持ちが離れていくのではないかという恐怖、それらを払拭する為に、俺がしてやったことを、してやっていることを思い出し、俺の存在価値をきちんと再認識してくれ。と、つい恩着せがましくなってしまうのではないのでしょうか。

むかつくお気持ちも解りますが、一番の解決方法はやはり感謝を示すことです。ご主人はお金というエナジー、Oさんは感謝というエナジーを交換することで、お二人の愛の波動を再び上手く回してみたい。

注意：魔女ともえが述べる内容はチャネリングによるひとつのサジェスチョンです。